資料３

事　務　連　絡
平成 30 年 11 月 12 日

各都道府県・指定都市教育委員会
各都道府県私立学校担当部局
構造改革特別区域法第１２条第１項の認定を受けた
地方公共団体の学校設置会社担当部局
各国立大学法人附属学校担当部局
各公立大学法人附属学校担当部局
　全国学力・学習状況調査担当課　御中

文部科学省総合教育政策局調査企画課学力調査室

平成 31 年度全国学力・学習状況調査の中学校英語「話すこと」調査の実施について

全国学力・学習状況調査の実施に当たっては，平素より御理解・御協力いただきありがとうございます。

＜はじめに＞

来年４月 18 日（木）に実施予定の平成 31 年度全国学力・学習状況調査における中学校英語「話すこと」調査では，各学校のコンピュータ教室等の PC 端末，配布する USB ヘッドセット及び USB メモリを活用し，音声録音方式により，一学級が同時に調査を行います。

この「話すこと」調査は，全国学力・学習状況調査において，筆記方式以外の新たな方式を初めて導入する調査であり，PC 端末等を活用することから，実施に当たって事前の確認・準備などの一定の作業が必要となります。このため，中学校英語「話すこと」調査の具体的な手順及び準備に向けての確認事項（一例）について，本年９月 28 日付事務連絡にてお知らせしたところです。各設置管理者におかれては，同事務連絡を参考に事前の御確認・御準備を進めていただいていることと存じます。

現在，一部の設置管理者から，調査に必要な PC 端末等の整備が間に合わない等の御相談をいただいております。

＜英語調査導入の経緯＞

文部科学省では，平成 29 年３月の「全国学力・学習状況調査における中学校の英語の実施に関する最終報告」において，英語教育の充実に向けて，平成 31 年度全国学力・学習状況調査の中で，中学校英語調査（「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」）を行うと提言されたことを受け，全ての中学校で実施できるよう調査設計を検討し，本年５月には全国 136 校（約２万人）が参

加する英語予備調査を実施し，準備を進めてきました。また，英語「話すこと」調査の実施方法については，前述の最終報告（平成 29 年３月）において，生徒と教員の対面による調査方法で実施することは，採点の妥当性・信頼性，技術開発の可能性，必要となる調査時間等の観点から課題があるため，コンピュータやタブレット等を活用した音声録音方式で行う旨，提言されており，本年の予備調査及び来年度調査も，この方針に基づいて進められています。

＜調査方法＞

来年度の英語「話すこと」調査における具体的な手順については，本年９月 28 日付事務連絡のとおりですが，この調査方法は，現状の各学校の ICT 環境の整備状況を踏まえて設計されたものです。具体的には，平成 30 年３月現在，公立中学校に設置されている PC のうち約 95％の OS が Windows であること等（※）を踏まえ，来年度の「話すこと」調査プログラムは Windows 対応のものを使用することとしました。また，全学校一斉のネットワーク接続により，帯域不足による遅延などの支障が想定されることから，調査方法はオンライン方式ではなく USB メモリを活用したオフライン方式としています。

さらに，英語予備調査の実施状況を踏まえ，調査の準備や実施に当たって必要な作業にかかる学校及び教職員の負担をできる限り軽減すべく，調査プログラムを改良し PC への負荷を低減したり，調査プログラムの生徒用 PC への展開や生徒用 PC からの音声データの回収をサーバ経由でできるように手順を改良したりするなど，調査手順等に一定の改善を図っております。

一方，来年度の英語「話すこと」調査は，各学校の PC 端末等を活用した調査であることから，各学校の ICT 環境の整備状況によって，各学校における準備や実施にかかる負担が多様であり，その程度が現時点で網羅的かつ詳細には把握できないこと，さらに，万全に準備をした場合においても，PC 端末の故障や不具合等が発生しうることなど，準備から実施に至る過程で，筆記方式の調査とは異なる課題や制約を抱えています。

＜特例措置＞

全国学力・学習状況調査は，義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力等の把握・分析を通じて，教育施策の改善を図ることを主な目的としています。したがって，教科調査（国語，算数・数学）及び質問紙調査（児童生徒，学校）を一体として扱い，毎年度（平成 22～24 年度を除く）悉皆で調査を実施してきました。調査の趣旨・目的は，来年度調査においても変わるところはないものの，英語「話すこと」調査は，初めて，筆記方式以外の方式で学校の PC 端末を活用し実施するものであり，各学校の ICT 環境が様々であることから，来年度の中学校英語調査のうち「話すこと」調査に限った特例的な措置として，下記のとおり，取り扱うこととします。なお，この措置については，本年 12 月に策定・公表予定の「平成 31 年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領」において定めるものですが，各設置管理者に対して前もってお知らせするものです。

各設置管理者においては，下記の１．について，各学校の ICT 環境の整備状況を把握し，各学校の状況を十分踏まえた上で，検討し，対応を判断いただくようお願いします。

なお，各設置管理者においては，外国語による聞くこと，読むこと，話すこと，書くことの言語

活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成するという新学習指導要領・外国語科の目標を見据えた英語教育の充実・改善に向けて，来年度の英語「話すこと」調査への対応にかかわらず，来年夏に公表予定の本調査結果及び同解説資料等も活用しながら，学校への指導，教員研修，指導体制の充実等の教育施策の改善・充実を図っていただくようお願いします。

また，各教育委員会におかれては，平成 30 年 7 月 12 日付生涯学習政策局長・初等中等教育局長通知「第３期教育振興基本計画を踏まえた，新学習指導要領実施に向けての学校の ICT 環境整備の推進について（通知）」の趣旨を踏まえ，引き続き，学校の ICT 環境の整備等に万全を期していただくようお願いします。

なお，来年度の英語「聞くこと」「話すこと」調査においては，発話や聴覚に障害のある生徒に対して障害の状態に応じた配慮をすることとします。

ついては，各都道府県教育委員会におかれては，本件について確認いただくとともに，域内の市（区）町村教育委員会（指定都市教育委員会を除く）に対しても周知いただきますようお願いします。

※全国の公立学校（小学校，中学校，義務教育学校，高等学校，中等教育学校，特別支援学校）を対象とした「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」結果に基づくもの。

記

１．平成 31 年度全国学力・学習状況調査中学校英語「話すこと」調査については，設置管理者が各学校の ICT 環境の整備状況を把握し，各学校の状況を十分踏まえた上で，検討し，設置管理者の判断により学校単位で「話すこと」調査を実施しないこととすることができる。

２．「話すこと」調査の実施状況については，調査実施後に文部科学省において確認の上，実施校の全国総数のみを公表する。

３．平成 31 年度全国学力・学習状況調査中学校英語調査の結果については，「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計を集計する。また，「話すこと」調査結果については，全国の平均正答数及び平均正答率を別に集計して「参考値」として公表することとし，都道府県別，指定都市別の公表は行わない。

４．１により「話すこと」調査を実施しなかった学校についても，「話すこと」調査問題及び調査結果を活用した授業改善が行えるよう，調査実施後すみやかに，調査問題，正答例，問題趣旨及び解答類型を公表する。

参考資料

平成 30 年９月

文部科学省初等中等教育局参事官付学力調査室

平成３１年度全国学力・学習状況調査の中学校英語「話すこと」調査に向けて

全国学力・学習状況調査の実施に当たっては、平素よりご理解・ご協力いただきありがとうございます。

来年４月１８日（木）に実施予定の「平成３１年度全国学力・学習状況調査」における中学校英語の「話すこと」調査では、各学校のコンピュータ室等の PC 端末、配布する USB ヘッドセット及び USB メモリを活用し、音声録音方式により、一学級が同時に調査を行います（時間割モデルは別紙参照）。

つきましては、現時点における来年度の中学校英語「話すこと」調査の具体的な手順について次ページ以降にお示ししますので、各教育委員会におかれましては、事前のご確認・ご準備をよろしくお願いいたします。具体的な確認・準備作業については、各学校のＩＣＴ環境によって異なりますが、確認事項の一例をまとめましたので、ご参照ください。

今後の段取りとしては、本年１１月中旬に、文部科学省より、「学校基本情報」の確認（AB 調査）の中で、各学校の ICT 環境（具体的にどのような PC を使用しているか等）を把握させていただく予定です。また、来年１月に、Web システムを通じて、「事前検証ツール」を配布する予定です。この「事前検証ツール」は、来年度の中学校英語「話すこと」調査と同じ調査プログラムでの検証となりますので、確実に実施していただくよう、よろしくお願いいたします。

それまでは、本年５月に実施した英語予備調査で使用した調査用 USB ヘッドセットや調査用 USB メモリをご活用の上、確認作業を進めていただくことも有効です。その際、予備調査の USB メモリを用いて検証した後は、必ずコピーしたツール類を各 PC 端末から削除するようにしてください。なお、英語予備調査の概要については、下記の国立教育政策研究所ホームページ（TOP＞ 全国学力・学習状況調査 ＞ 英語予備調査）をご参照下さい。

http://www.nier.go.jp/18chousakekkahoukoku/kannren_chousa/eigo_yobichousa.html

なお、来年１月以降に、文部科学省による中学校英語「話すこと」調査に関する説明会を実施する予定です。詳細については改めてご連絡いたします。

来年度の中学校英語「話すこと」調査の手順

事前準備

① 調査プログラムを Web システムから学校の PC にダウンロード

② 調査プログラムを生徒用 PC に展開（コピー）

実施

③ 各 PC で調査を実施（音声データは PC 内のローカルドライブに保存）

回収

④ 調査実施後に USB メモリを用いて音声データを回収

※生徒用 PC1 台 1 台から回収する方法の他に、サーバ経由で解答データを回収し、サーバから USB メモリを用いて全解答データを回収することも可能（詳細は別途ご連絡）

削除

⑤ 各 PC 内の残データを削除

確認事項（一例）

■各 PC の性能、ＯＳ（基本ソフトウエア）の確認

各 PC で必要とされる性能は以下のとおりです。ただし、これはあくまで目安であり、他にインストールされているソフトウェアの影響を受ける可能性もあります。来年１月に配布予定の「事前検証ツール」にて、必ず事前検証を行ってください。

OS　：　Windows7 以上
HDD：　空き容量 2GB 以上
メモリ：　4GB 以上
その他：　USB 空きポート 1 ポート以上（調査用 USB ヘッドセットで利用）

■セキュリティ環境や環境復元ソフト等の確認

セキュリティの関係上、事前登録したＵＳＢメモリしか使用できない設定になっていたり（ＵＳＢポートを遮断）、新たなファイル等をコピーしても、再起動すると消えてしまう環境復元ソフトが導入されていたりする場合が想定されます。これらの場合、調査の円滑な実施のために、一時的な設定の解除が必要となります。

また、フィルタリングソフトを導入している場合も、同様に一時的な設定変更の必要が生じる場合があります。

■セキュリティ環境や環境復元ソフト等の解除の方法・手順の確認

上記のとおり、一時的な設定変更が必要となる場合があるため、適切に対応できるよう、予め設定方法等をマニュアル化しておく等の対応が有効です。

≪問合せの多い事項≫

Q1
　来年度の中学校英語「話すこと」調査プログラムは、Windows 以外の OS に対応していますか。（Linux や Android にも対応していますか。）

　来年度の中学校英語「話すこと」調査プログラムは、Windows 対応のものとなります。それ以外の OS の場合は、代替の端末を利用する等、Windows 環境で調査が実施できるよう、ご対応のほどよろしくお願いいたします。

Q2
　本年５月の英語予備調査との違いは、どのような点でしょうか。

　英語予備調査では、調査前日に USB メモリが各学校に送付され、格納された調査プログラムの展開作業を行っていただきましたが、来年度の英語「話すこと」調査においては、事前に、Web システムから調査プログラムをダウンロードしていただけるよう改善を図っています。また、回収についてもサーバ経由の回収を可能とできるよう検討しています。

Q3
　大規模校などで PC の台数が不足している場合は、どうしたらよいでしょうか。

　来年度の中学校英語「話すこと」調査は、対象学年（中学校３年生）が９学級以下の学校であれば、同一学級の生徒が一斉に、かつ、原則として、調査対象学年の生徒全員が３単位時間以内で終わるよう設計されています。なお、10 学級以上の大規模校で３単位時間以内に調査が実施できない場合は、不足台数を貸し出す予定ですので、本年 11 月の「学校基本情報」の確認（AB 調査）後、別途、ご対応についてご相談ください。

（参考）９学級の場合の時間割例

１時限目（50 分）	２時限目（50 分）	３時限目（50 分）	４時限目（50 分）	５時限目（50 分）	６時限目（50 分）
国語（50 分）	数学（50 分）	英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」（45 分）	英語「話すこと」（１組、２組、３組）※	英語「話すこと」（４組、５組、６組）※	英語「話すこと」（７組、８組、９組）※

※生徒質問紙（20～45 分程度）は、「話すこと」調査を実施していない時間帯に順次実施。

Q４
　タブレット等ＵＳＢポートがない PC の場合は、どうしたらよいでしょうか。

　来年度の英語「話すこと」調査は、デジタルで高音質の音声データを取得する必要があるため、USB ヘッドセットを使用します。そのため、各 PC に最低 1 つの USB ポートが必要となります。
　USB ポートそのものが無かったり、USB メモリを読取不可にしていたりする PC を利用している学校については、代替機や変換コネクタの利用、設定変更の可否をご検討ください。

Q５
　ヘッドセットは、学校で用意する必要があるのでしょうか。

　調査に用いるヘッドセットは、文部科学省で用意します。来年 1 月頃に、検証用 USB ヘッドセット（1 本）を各教育委員会及び各学校にお送りする予定です。これを用いてヘッドセットが正常に機能するかどうか事前検証を行ってください。また、調査当日に使用するヘッドセットは、調査前日に到着する資材に同梱します。

Q６
　現在、本年５月の英語予備調査で使用した調査用 USB メモリを用いて検証作業を行っています。これで対応可能であれば、来年度の英語「話すこと」調査も問題ないと判断してよいでしょうか。

　本年５月の英語予備調査で使用した調査用 USB メモリを用いて検証作業を行っていただき、現時点での課題を把握していただくことは有効だと考えています。ただし、来年度の中学校英語「話すこと」調査は、予備調査プログラムに若干の改善を加えているため、来年１月に Web システムを通じて配布する「事前検証ツール」による検証作業を必ず行ってください。（「事前検証ツール」のプログラムは、来年度の中学校英語「話すこと」調査と同じプログラム仕様となっています。）

Q７
　「事前検証ツール」が動作しなかった場合は、どうすればよいでしょうか。

　環境を変更しなければならない可能性があります。今後 Web システムに掲載予定の FAQ をご確認いただき、適宜設定変更を行ってください。ご不明点があれば、コールセンター（11 月頃開設予定）もご活用ください。また、状況に応じて、各自治体の情報担当部局ともご相談ください。

別紙

平成 31 年度全国学力・学習状況調査の時間割のモデル

1. 本体調査実施日

平成31年度4月18日（木）（後日実施は、4月19日（金）～5月7日（火）まで可能）

2. 時間割のモデル

※国語、算数・数学の調査時間の変更：小学校 40 分→45 分、中学校 45 分→50 分に変更

◆小学校

1時限目（45 分）	2時限目（45 分）	
国語（45 分）	算数（45 分）	児童質問紙（20～40 分程度）

※児童質問紙の実施は、2時限目終了後に、各学校の状況に応じて、柔軟に実施可能。

◆中学校（6学級の場合）

1時限目（50 分）	2時限目（50 分）	3時限目（50 分）	4時限目（50 分）	5時限目（50 分）	6時限目（50 分）
国語（50 分）	数学（50 分）	英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」（45 分）	生徒質問紙（20～45 分程度）等	英語「話すこと」（1組、2組、3組）	英語「話すこと」（4組、5組、6組）

＜補足＞

○ 「話すこと」調査の所要時間は、生徒1人当たり 10～15 分程度（準備5～10 分程度を含む）。同一学級の生徒を一斉に調査でき、かつ調査対象学年の生徒全員が3単位時間以内で調査できるように設計されている。

○学校規模等により「話すこと」調査の所要時間が5、6時限目で収まらない場合は、4時限目も「話すこと」調査の実施に充てることができる。

○「話すこと」調査の終了後に、「話すこと」調査に関する「生徒質問紙調査」の一部（所要時間1分程度の選択式）を実施予定。